

御浜町の獣害対策支援事業

獣害に負けない産地を目指して

最近「サルやイノシシ等の野生動物に田や畑を荒らされてしまった」という話をよく耳にします。せっかく作った農作物が、収穫前に野生動物に駄目にされてしまえば、生産意欲も半減してしまいます。

獣害被害をなくするためには、狩猟及び有害捕獲等だけでなく、集落やグループで取り組んでいくことが必要とされています。まず、いろいろな獣害対策を知り、そしてできることから取り組んでいきましょう。

ここでは御浜町が取り組んでいる獣害対策のメニューを紹介いたしますので、ぜひ利用ください。(年度により事業内容が変わる場合があります。)



出張獣害対策講習

地域の獣害対策に取り組むグループに対し、職員と獣害対策の専門家が出張し、農地の弱点診断、先進事例の紹介、獣害対策講習を開催します。

希望する講習テーマ、おおよその参加人数、希望日、希望会場をお聞きます。

電動ガン(威嚇用)の貸出し

有害鳥獣を威嚇し追い払うために威嚇用電動ガンを貸出しています。貸出しは無料です。(玉代は個人負担) 猟銃と違い、電動ガンを使うために資格は必要ありません。

有害鳥獣捕獲檻の貸出し

有害鳥獣を捕獲するための捕獲檻を貸出しています。この檻は箱罠に該当しますので、設置には資格・登録等が必要です。くわしくは、お問い合わせください。

獣害対策事業補助制度

この補助制度は電気柵・恒久柵資材・捕獲おり等の購入費用の一部を補助するものです。また、設置の際は、町で配布している獣害対策マニュアルをご利用ください。

補助となるものは、農作物を有害鳥獣から守る防護柵や捕獲するためのおり等の被害を防ぐ資材です。

獣害対策マニュアルの配布

獣害対策で特に重要な「獣を集落によせつけない」、「畑を獣から直接守る」をシンプルに記述したマニュアルです。チェックシート形式となっていますので、周辺環境の確認や防護柵設置の際にご利用ください。

お問い合わせ先・お申し込み先

御浜町役場 農林水産課 電話: 05979-3-0517 FAX: 05979-2-3502

田畑の守り神

奈良県十津川村高滝にある高滝神社の使いがオオカミといわれています。お祭りの日に使われた御幣を田んぼや畑に立てると猪が来ないといわれています。尾呂志からこの御幣を借りて高滝神社まで来たという文献が十津川村に保存されています。

山を越えて十津川村まで行って神頼みしたくなるほど猪の害を防ぎたかったんや。



昔の獣害対策
獣害との戦いは、昔からあったんやよ

猪垣 ししがき

熊野の地には総延長200kmにもなる猪垣が今も山中に残っています。石を高さ1.5mほどに積み並べた構造物で、尾根を越え谷を渡って続いています。気の遠くなるような時間と労力をかけてでも作らないと防ぎようがなかった獣たちとの戦いは、本当に大変でした。

昔の人は本当にえらかったんやね。



片川の猪垣

尾呂志地区活性化プラン推進委員会

(御浜ローカルラボ内) <https://indoor-lodging-861.business.site/Oroshi District Enlivening Plan Committee>
(office at Mihama Local Laboratory)

TEL/FAX 05979-9-1654

Address 三重県南牟婁郡御浜町上野26

26, Uwano, Mihama-cho, Minamimurou-gun, Mie-ken, Japan



恋しよろしホームページ

冊子で伝えきれない情報がホームページでご覧いただけます。facebookページと合わせて「尾呂志」の魅力をお伝えして行きます。
<http://koishiyooroshi.com>



制作: 尾呂志地区活性化プラン推進委員会
協力: 尾呂志地区のみなさん 文章協力: 丸井みのる
デザイン・印刷製本: ネットファーム(代表: 高見守)
発行日: 令和2年(2020年)3月5日 第1刷
●本紙の記事・写真・地図等の無断転載を禁じます。



尾呂志まるごと強くなるっ!

(獣害対策で地域力の向上へ)



兵庫県立大学教授/博士(農学)
自然・環境科学研究所主任研究員
兵庫県森林動物研究センター主任研究員

山端 直人氏

やまばた なおと

地域ぐるみで 獣害エキスパートに学ぶ

「どこに被害があって、なにに困っているかをおしえてもらえますか？」山端直人さんのおだやかな声で現地調査は、はじまりました。山端さんは兵庫県や三重県に研究フィールドを置き、地域ぐるみで野生動物の被害管理に取り組んでいます。

この日、尾呂志地区の各エリアから集まった住民は、山端さんと地図を囲んでいました。「一番困っているのはサルですか」、「イノシシも出ますか」、「どこで何頭くらい見かけますか」という問いに被害状況を出し合います。そのあと地区内の柵やオリを見てまわり「柵の下にL字の金網を加

「獣害問題は全国の中山間地域が抱える大きな課題のひとつです。」「せっかく育てた野菜や果物が食べられてしまった、ほんまに腹立つ!」「このままでは収益も生きがいも無いようになる。」「侵入防止の電気柵を設置しても野生動物はこじ開けて入ってきます。」「いったいこれからどうしたらええんやらか、やる気せんのっ!」



人里は「エサがない」「こわい」場所だと思わせる

山端さんは獣害対策は「予防」→「治療」→「手術」のステップにたとえられるといいます。そのときに動物の本能から考えると

- ①エサがあるか
 - ②安全かどうか
- の2つがポイントになります。

まず動物が里にくるのを「予防」するためには、エサ場を作らず、隠れ場をなくします。稲を刈ったあとに再生するひこばえは、実はサルやイノシシの大好物です。場所を知ると翌年から収穫前にもねらいにくるので、冬場も電気柵を作動させましょう。また農地の近くにある草むらは、イノシシが身を潜める絶好の場所になるので刈り払うようにします。

動物が里においてくるようになったら「治療」が必要です。守るべき畑はネットや柵で正しく囲います。下が少しでもあいていると動物はこじ開けるので「柵を作ったときがスタート」だと考え、定期的なメンテナンスを心がけます。また、サルには「人里はこ



わいところ」と覚えさせることが重要です。追い払いをするときに、畑からいなくなったからとやめてしまうと、サルは「横に移動して隠れただけ」という意識のままです。集落の外に出るまでサルを押し返すつげないと効果はありません。

努力をしても効果が現れないときは、頭数が多すぎるのかもしれませんが、そのときは行政の力を借りてオリを設置するなどの密度管理が必要になります。これが「手術」に相当します。

これら3段階のステップで最も重要なことは、役割分担を明確にすることです。各自の農地を守る柵の設置やエサ場の軽減は個人でできます。一方で、集落全体を囲う防護柵やサルの追い払いなど個人で困難なことは、集落や行政とともに取り組む必要があります。だれがなにをするべきかを地域住民と行政で共有し、それぞれがすべきことをする体制づくりが大切です。



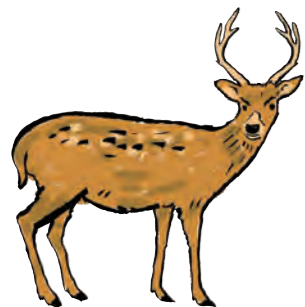
「地域力」も強くなる 獣害対策

これまでの事例をふり返り、主体的に獣害対策に取り組んだ集落は「地域力」も向上したと、山端さんは感じています。「ひとつの目標に向かって共同で作業をすると、集落の結びつきが強くなるんです。獣害対策も、昔からある祭やゴミ当番、交通当番のように、地域活動の一環として考えてみてください。住民のみなさん一人一人にちょっとずつ協力していただけたらいいと思います」。同じ目的を持って組織的に動くことは、地域の仲間意識を強め、世代をこえて共有できる活動になるでしょう。

獣害は、農業にたずさわる人だけの問題ではありません。ひどくなるとサルが通学路の子どもを襲う、シカやイノシシが道路に飛び出して交通事故を招く、感染症を媒介するダニを持ち込むなどの被害が発生することも考えられます。集落に暮らすみんなが当事者になるかもしれません。

ひとりでやると負担になることでも、みんなで分担をして進めれば、その過程で培った「地域力」は防災や福祉など、あらゆる面で地域が強くなる力になっていきます。





獣害対策Q&A

サルやイノシシ、シカ、から尾呂志を守ろう！ あなたの行動からはじまる獣害のない尾呂志づくり



Q

なぜ？
サルやイノシシは
人里に入ってくるように
なったの？



A

かつて動物にとって人里はこわい場所でした。危険を冒すより安心できる山でエサを探していたのです。

しかし里の人口が減ると、しだいに動物が集落は安全な場所だと認知するようになり、エサがふんだんにある里においてくるようになりました。

ぼくたちは一個所のエサ場をグループで共有しているんだ。一匹だけを追いはらっても意味ないよ、別の仲間も通っているからね。

ぼくたちは、いいエサ場を見つけたら自分の子どもたちにも教えるんだ。エサ場は代々、引きつぐんだよ。



Q

猿の追い払い
なんでみんな
やらないといけないの？
個人個人でやれば
いいのでは？



A

サルは中途半端に追い払っていると、人が近づいても逃げないようになります。「人里はこわい」とおぼえさせるために、サルを見つけたら一気に複数の人数で集落から出るまで追い払う必要があります。

花火で音を出す係と、パチンコを打つ係を組み合わせるなど作戦を立て、みんなで立ち向かうと効果が上がります。



Q

わたしは畑も田んぼも
つくっていません。
なぜ、シカやサルが？
近くにくると困るの？



A

サルが屋根の上でみかんを食べている姿を見たことはありませんか？サルが人里に来ると糞(ふん)やみかんの皮で雨どいが詰まる、家の中に入る、通学路の子どもを襲うなどの危険が考えられます。また、シカやイノシシが道路に飛び出して交通事故を招く、感染症を媒介するダニを持ち込む、ゴミやお供えものを荒らすなど、身近なところに被害にあう可能性があります。



Q

柵をしていても動物が
中に入ってきます！
どうしてですか？



A

正しく柵が設置できていますか。次の3つの点を確認しましょう。

- 柵は
- ①すき間をつくらず、しっかり囲む
 - ②作物から離して設置する
 - ③外側に歩けるスペースを確保し、定期的に管理点検をする



Q

うちの田んぼは、
もうつくっていません。
荒れて雑草ばかりでも
大丈夫！？



A

集落内に安心できる隠れ場があると、動物は人里においてきます。耕作放棄地や農地の近くにある草むらは、イノシシが身を潜める絶好の場所です！

放置されている果樹などはエサ場になります。これを伐採して取り除きましょう。使っていない農地、空き地などでもできるかぎり刈り払うようにしましょう。



Q

いっしょに
獣害対策の活動を
したいのだけど？



A

たのしい仲間がいつでもみなさんを大歓迎します！

「尾呂志地区活性化プラン」(御浜ローカルラボ内 TEL.05979-9-1654)にご連絡ください。上野地区では獣害対策班をつくり班員がLINEのグループで、情報を共有しています。

